

私の神学生時代に、ある神父様から勧められた本がある。内容はハードだが、一気に読み進めてしまうほど非常に面白い本だ。史実に基づいていることもあって、小説であっても、その世界観に引き込まれていき、きつと自分の中のキリスト像も揺さぶられていくだろう。

特に私にとって思い出となったのは、この本を読んだ後、世界青年大会（ワールドユースデー）のクラク

『神の棘』Ⅰ・Ⅱ巻（須賀しのぶ著、新潮文庫、2015年、二巻税込1870円）



上田憲神父から  
この一冊

司牧者がリレー形式で若者たちに読んでほしい書籍を紹介し、青年たちの読書感想文を掲載する連載。今回は上田憲神父様（かわちブロック主任、大阪セミナリオ・ビアンネ館）が担当。



フ大会に参加する機会を得て、小説の舞台のアウシュビッツへ実際に足を運び、その歴史の重さを知ることができたことだ。

また、この本を読み、あらためて信仰とは何か、教会の罪とは何か、教会が向かうべき姿、修道者の姿など、多くのことを考えることができた。

先輩神父から話を聞く中で、戦時中、兵士のために働いた「従軍司祭」とはどのような人だったのか知ったが、小説の中の登場人物の姿に、私たちは本当にどれほど御聖体を大事にしているかなど、色々と考えさせられていった。

理想への憧れ、「時代」への叫び、神父としての苦悩、親友の裏切り、その他多くのものが含まれている。今、みんなに読んでもらいたい一冊である。



『知ることより考えること』（池田晶子著、新潮社、2006年、税込1320円）

神学校の授業で『ソクラテスの弁明』という池田晶子氏の本に出会ってから、すっかりファンになってしまった。「哲学」と聞くと、思わず嫌に感じてしまうこともあるが、彼女の本は本当に面白い。今回の推薦ではないが、『14歳の君へ』

全地区社会活動委員のつどい 2021



## — 現実から出発して福音を聴く —



5月22日（土）午後、「全地区社会活動委員のつどい」がオンライン会議ツール、Zoom を利用して開催された。

このつどいは、年に一度各地区的社会活動委員が集まって一年間の活動を報告するとともに、研修やワークショップを通して信仰に基づいた社会活動のあり方を振り返るもの。

当日は40人を超える委員が参加し、今年のつどいのテーマ「すべてのいのちを守るうゝ誰も置き去りにされない世界に向けて」"one will be left behind"について考えた。前田万葉大司教のお祈りで幕を開け、まず社会活動委員に関する説明や、事前に協力いただいた「活動に関するアンケート」の報告などがあつた。

その後、「現実から出発して福音を聴く」というサブテーマで、シナピスホームの担当スタッフで、昨年よりギランバレー症候群という難病に罹患した山田直保子さんのお話を聞いた。山田さんが車いすで移動中に遭遇したハラスメントや差別的なまなざし、両

手を広げ心ごと抱きしめてくれた難民移住者たちとの涙の再会、自身と神との対話など、聞く人の心に深く訴える問いかけがあった。いくつかのグループに分かれて分かち合いを行った後、み言葉を味わいながら、山田さんの問いかけにどのように応えられるのかを一人ひとりが考えた。つどいの最後には、酒井俊弘補佐司教のお祈りによって参加者に祝福が与えられ、またそれぞれの場所へと派遣されていった。

### 参加者からの声

▼「その人に寄り添ってと思いつつも、知らずに傷つけているかもしれない中、知って学んでシェアして行動できる、平和の道具になればと思います」。

▼「山田さんのお話は、シナピスニュースや時報で拝見していましたが、やはりご本人から直接聴いたお話にはとても衝撃を受けました」。

た。自分が正しいと思っていることが実はたいへん人を傷つけることがあるのに気づかない、これは私自身にもあることだと思いましたが、

▼「分かち合いの中で、私たちはどのようなかわれбайいのか考えさせられました」。

▼「信仰のまなざしをもつて現実を見つめて行動することが求められると自問自答した次第です」。

▼「コロナ禍でこのような集いに参加できて、とてもありがたいと感謝しました」。

（参加者アンケートより）

▼「だれもが生きやすい、生活しやすい社会ではない。日常の一コマ一コマに何をどうすべきなのか？今問われているんだと感じました」。

（参加者アンケートより）



「リモート？」「Zoom？」思ったよりもすぐ慣れました

### 聖ヨセフとわたし

聖ヨセフ年（今年12月8日まで）を記念し、霊名がヨセフの司牧者に聖ヨセフにちなんだものの紹介や個人的な気づきをシェアしていただく。



### ヨセフが示すお手本

ヨセフ年は、私にとって、洗礼名であるヨセフについて思い巡らす良い機会となっています。この機会の中で、ヨセフは信仰の手柄を示してくれていると感じます。この手柄は、私が一つ不思議に思った事から響き出しました。

ヨセフはイエス様にとって、養父であり、大工の親方でもあります。この関係は、神様が人を育てることではなく、人が神様を育てることです。以前はあまり気に留めませんでしたけれど、今、この関係はとても不思議だと思いました。

聖書にこうあります。「イエスは両親とともに、（中略）イエスは知恵も増し、背丈も伸び、ますます神と人にとに愛された（ルカ2・51～52）」「大工の子ではないか（マタイ13・55）」。

これらのことから、ヨセフはマリアと共に、イエス様を大事に育てられたことが思い浮かびます。

人がイエス様を大事に育てることは、同時にイエス様が人を愛してくださること。今、コロナ禍の困難な時、ヨセフが示す手柄にならい、自分の中のイエス様を大事に育てながら歩めますように。聖ヨセフの取次ぎを願いながら。



稲葉善章神父  
（御受難会）